

電気・精密機器

1. 評価対象企業（24 社）

【産業・民生エレクトロニクス部門】（10 社）

日 立 製 作 所、三 菱 電 機、オ ム ロ ン、日 本 電 気、富 士 通、
ルネサス エレクトロニクス（新規）、パナソニック、シャープ、
ソニーグループ（注）、ヤマハ（新規）

【電子部品部門】（6 社）

日本電産、T D K、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工

【精密機器部門】（8 社）

富士フイルムホールディングス、ディスコ（新規）、セイコーエプソン、
アドバンテスト（新規）、H O Y A、キヤノン、リコー、東京エレクトロン

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）ソニーが商号を変更した（2021 年 4 月）。

2. 評価方法

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価 項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	22
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	18
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	18
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 74 名（所属先 32 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規の企業を加えたほか、コーポレート・ガバナンス関連を除く 4 分野において、項目追加・削除または内容・配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の電気・精密機器全体（以下「全体」）の総合評価平均点は 74.2 点（昨年度 68.9 点）、総合評価点の標準偏差は 9.6 点（昨年度 9.2 点）であった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、高得点順に、精密機器部門（8 社）が 77.0 点（昨年度 70.6 点）、電子部品部門（6 社）が 74.1 点（昨年度 66.3 点）、産業・民生エレクトロニクス部門（10 社）が 72.0 点（昨年度 69.0 点）となった。昨年度に比べ、3 部門共に上昇したが、特に、電子部品部門と精密機器部門の上昇幅が大きかった。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 74%（昨年度 70%）、説明会等が 76%（昨年度 70%）、フェア・ディスクロージャーが 84%（昨年度 77%）、

コーポレート・ガバナンス関連が 72%（昨年度 66%）、自主的情報開示が 68%（昨年度 63%）となり、5 分野全てで昨年度を上回った。

- ④ 評価項目について見ると、全 15 項目のうち、フェア・ディスクロージャーの次の 2 項目が 80%以上の平均得点率となり（昨年度は説明会等の 1 項目）、高水準となった。

- (a) 「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応）を行っていますか」（平均得点率 89%）（得点率（評価点/配点<以下省略>）：90%台 17 社・80%台 5 社・70%台 1 社・60%台 1 社）
- (b) 「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率 87%）（得点率：90%台 11 社・80%台 11 社・70%台 1 社・60%台 1 社）

- ⑤ 一方、自主的情報開示の次の項目は平均得点率が 60%台となり、最も低かった。

- ・ 「ESG 説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会が実施され、その内容は有益でしたか」（平均得点率 62%〔昨年度 54%〕）（得点率：30%台 1 社・40%台 5 社・50%台 6 社・60%台 2 社・70%台 6 社・80%台 4 社）

- ⑥ 非財務情報に関連する 2 項目（コーポレート・ガバナンス関連、自主的情報開示の中の各 1 項目）は、次のとおりとなった。

- (a) 「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、ガバナンス体制、ダイバーシティの状況、役員報酬体系、政策保有株式に関する考え方等」（平均得点率 72%〔昨年度 68%〕）（得点率：40%台 1 社・50%台 2 社・60%台 5 社・70%台 9 社・80%台 6 社・90%台 1 社）
- (b) 「統合報告書において非財務情報（ESG 情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていきますか」（平均得点率 75%）（得点率：50%台 2 社・60%台 4 社・70%台 10 社・80%台 7 社・90%台 1 社）

(2) 全体の上位 3 企業の評価概要

第 1 位 オムロン（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 7 回目〕、総合評価点 86.3 点〔昨年度比+2.2 点〕

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第 1 位（得点率（以下省略）84%）、経営陣の IR 姿勢等（88%）、自主的情報開示（86%）が第 2 位、説明会等が同得点第 2 位（85%）、フェア・ディスクロージャーが第 4 位（89%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組み内容を投資家に的確に伝えていること」が最も高い評価となった。また、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」も高く評価された。これらに関連して、経営トップや CFO の積極的な IR 姿勢や、説明会における各事業部長（カンパニー社長）による説明を評価する声が寄せられた。また、ESG 説明会の定期開催や、説明資料の内容の充実を評価する声もあった。なお、「IR 部門の機能、基本的スタンス」については、第 4 位となった。
- ③ 説明会等においては、「説明会資料等における開示」が最も高い評価となった。また、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」も評価された。これらに関連して、補足資料、財務データ集の内容を評価する声が寄せられ、また、継続性に留意しつつ開示を工夫しているとの声もあった。一方、「主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって十分に説明されていること」（第 10 位）については、第 1 位から 10 ポイント差があった。なお、受注動向、収益構造に関する情報のさらなる充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応）を行っていること」が高い評価となった。また、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も

含む)に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」も90%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会終了後のウェブサイトにおける動画配信、取材時のメールによる問い合わせへの丁寧な対応について評価する声が寄せられた。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢(例えば、ガバナンス体制、ダイバーシティの状況、役員報酬体系、政策保有株式に関する考え方等)を十分に説明していること」が最も高い評価となった。これに関連して、個別ミーティングや ESG 説明会で考え方などが十分説明されているとの声が寄せられた。「目標とする経営指標等」および「資本政策、株主還元策の開示」も、80%以上の得点率となった。これらの結果、この分野において同得点第1位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書において非財務情報(ESG 情報等)を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が最も高い評価となった。また、「ESG 説明会、工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会が実施され、その内容が有益であったこと」も評価された。これに関連して、ESG 説明会を評価する声が多く寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 富士フイルムホールディングス (総合評価点 84.5 点 [昨年度比+9.2 点]、昨年度第7位)

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第1位(91%)、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第1位(84%)、自主的情報開示が第3位(85%)、経営陣の IR 姿勢等が第6位(84%)、説明会等が同得点第7位(82%)となった。昨年度に比べ、5 分野全てで得点率が改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること、また、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」が評価された。これに関連して、IR 部門が情報開示の改善に向けて投資家とのコミュニケーションに尽力していること、細かな品目の売上構成や採算性などのデータも提供できていることを評価する声が寄せられた。また、「経営陣の IR 姿勢」の2 項目も共に 80%以上の得点率となった。これらに関連して、四半期を含む決算説明会に、毎回経営トップや主要幹部が参加するなど IR 意識が高いこと、事業ポートフォリオ改革の方向性が的確に説明されていることを評価する声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「決算説明会における会社側の説明および質疑応答が十分に満足できること」および「主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって十分に説明されていること」が共に高く評価された。「決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料に必要な情報が網羅されていること」は同得点第10位であったが、昨年度に比べ、得点率は大きく(17 ポイント)上昇した。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示(メディア対応も含む)に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていること」が最も高い評価となった。また、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供(説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応)を行っていること」も高く評価された。これらの結果、この分野において第1位となった。これらに関連して、説明会資料の日英両言語による掲載の徹底、質疑応答内容の全面配信を評価する声があった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中・長期経営計画(ROE など目標とする経営指標)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。また、「資本政策、株主還元策が十分に説明されていること」も高い評価となった。これらの結果、この分野において同得点第1位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「ESG 説明会、工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会が実施され、その内容が有益であったこと」が最も高い評価となった。また、「統合報告書において非財務情報(ESG 情報等)を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」も 80%以上の得点率となった。内容が有益だったものとして、事業説明会(特にバイオ CDMO 事業説明会)を挙げる声が多かった。

第3位 日立製作所 (総合評価点 83.8 点 [昨年度比+5.2 点]、昨年度同得点第3位)

- ① 同社は、自主的情報開示が第1位(86%)、経営陣のIR姿勢等が第4位(85%)、コーポレート・ガバナンス関連が第5位(83%)、説明会等が同得点第11位(80%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第12位(85%)となった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取り組み内容を投資家に的確に伝えていること」が高い評価となった。また、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していること」も80%以上の得点率となった。これらに関連して、経営陣がIR Dayや経営方針説明を通じて積極的に情報発信をしていること、重要な説明会には経営トップが出席し、個別対話にも対応していることを評価する声が寄せられた。また、ESGの取り組み強化と企業価値の向上をリンクさせて説明しているとの声もあった。なお、「IR部門の機能、基本スタンス」は第7位となった。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料が必要かつ十分な情報が網羅されていること」が同得点第4位となった。これに関連して、補足資料の内容が充実したとの声や、セグメントの開示に改善が見られたとの声があった。一方、「主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもって十分に説明されていること」は、平均得点率を下回った。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供(説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応)を行っていること」が高い評価となった。これに関連して、説明会や質疑応答の内容を動画で速やかに確認できる点を評価する声が寄せられた。なお、「疫病や自然災害等のリスク情報の開示」については、平均得点率に達しなかった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「中・長期経営計画(ROEなど目標とする経営指標)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」が高い評価となった。「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢(例えば、ガバナンス体制、ダイバーシティの状況、役員報酬体系、政策保有株式に関する考え方等)を十分に説明していること」も評価された。なお、「資本政策、株主還元策の開示」は第8位となった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「統合報告書において非財務情報(ESG情報等)を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が高い評価となった。これに関連して、統合報告書のほかにサステナビリティレポートも充実しているとの声があった。また、「ESG説明会、工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A説明会が実施され、その内容が有益であったこと」も評価された。これに関連して、Investor Day、環境戦略・研究開発戦略説明会を評価する声が寄せられた。これらの結果、この分野において第1位となった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ リコー(総合評価点 82.2 点〔昨年度比+6.9 点〕、第 6 位〔昨年度第 7 位〕)

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連が第3位(84%)、自主的情報開示が同得点第4位(82%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第5位(88%)、経営陣のIR姿勢等が第7位(82%)、説明会等が第14位(80%)となった。昨年度に比べ、5分野全てで得点率が改善し、特に、自主的情報開示の上昇幅が大きかった。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取り組み内容を投資家に的確に伝えていること」が第4位となった。また、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していること」も80%以上の得点率となった。これらに関連して、ESGの取り組み強化と企業業績との関係を的確に説明していること、経営陣がそれぞれ適切に役割分担し情報発信を行っていることを評価する声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料が必要かつ十分な情報が網羅されていること」が同得点第4位となった。これに関連して、説明資料の内容の充実を評価する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「疫病や自然災害等のリスク情報の開示」が評価された。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「リモートツールによる情報提供」も共に90%以上の得点率となった。これらに関連して、説明会資料の日英両言語による掲載の徹底、質疑応答内容の全面配信を評価する声があった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「資本政策、株主還元策の開示」が高い評価となった。また、「コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢(例えば、ガバナンス体制、ダイバーシティの状況、役員

報酬体系、政策保有株式に関する考え方等)を十分に説明していること」も評価された。これに関連して、四半期毎にガバナンスミーティングを行うなど積極的に情報発信を行っているとの声が寄せられた。これらの結果、この分野において、第1位と僅差の第3位となった。

- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書において非財務情報（ESG 情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が高い評価となった。なお、「ESG 説明会、工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会が実施され、その内容が有益であったこと」は第7位となったが、昨年度に比べ得点率が大きく（20 ポイント）上昇した。これに関連して、IR Day を評価する声が寄せられた。

○ **ローム**（総合評価点 74.7 点〔昨年度比+15.7 点〕、第 15 位〔昨年度第 19 位〕）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第8位（87%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が第9位（77%）、**説明会等**が第13位（80%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第15位（73%）、**自主的情報開示**が同得点第17位（62%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てで得点率が大幅に改善し、特に、**コーポレート・ガバナンス関連**は 20 ポイント上昇した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（第15位）が、昨年度に比べ、得点率を 16 ポイント伸ばした。これに関連して、初めて中期経営計画を開示し、詳細な説明を行ったことを評価する声が寄せられた。
- ③ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策、株主還元策の開示」（同得点第8位）が、80%以上の得点率となった。また、「中・長期経営計画（ROE など目標とする経営指標）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていること」（同得点第10位）については、昨年度に比べ、30 ポイント近く得点率を伸ばした。
- ④ **自主的情報開示**においては、「統合報告書において非財務情報（ESG 情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」および「ESG 説明会、工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M&A 説明会が実施され、その内容が有益であったこと」が共に、昨年度に比べ 10 ポイント以上改善した。なお、統合報告書の内容や中期経営計画説明会が充実していたとの声があった。

（参考） 部門別の第1位企業

【産業・民生エレクトロニクス部門】

オムロン（総合評価点 86.3 点、当部門第1位（8 回目）、全体第1位）

【電子部品部門】

日本電産（総合評価点 81.7 点、当部門第1位（17 回連続）、全体第7位）

【精密機器部門】

富士フイルムホールディングス（総合評価点 84.5 点、当部門第1位（2 回目）、全体第2位）

以 上

2021年度 ディスクロージャ－評価比較総括表（電気・精密機器:全体）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のI R姿勢、 I R部門の機能、I R の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前 回 順 位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	6645 オムロン	86.3	28.1	2	18.7	2	8.9	4	15.2	1	15.4	2	1
2	4901 富士フイルムホールディングス	84.5	26.8	6	18.1	7	9.1	1	15.2	1	15.3	3	7
3	6501 日立製作所	83.8	27.2	4	17.7	11	8.5	12	14.9	5	15.5	1	3
4	6758 ソニーグループ	83.5	27.3	3	18.2	6	8.8	5	14.6	8	14.6	6	2
5	8035 東京エレクトロン	83.1	26.9	5	18.7	2	8.5	12	15.0	4	14.0	7	5
6	7752 リコー	82.2	26.1	7	17.5	14	8.8	5	15.1	3	14.7	4	7
7	6594 日本電産	81.7	28.5	1	19.2	1	9.0	2	13.7	11	11.3	16	6
8	6857 アドバンテクト	81.6	25.5	9	18.0	9	8.6	10	14.8	6	14.7	4	
9	7951 ヤマハ	78.4	25.5	9	18.0	9	9.0	2	14.7	7	11.2	17	
10	6981 村田製作所	77.5	25.0	12	18.3	4	8.7	8	13.2	15	12.3	10	13
11	6702 富士通	76.8	25.2	11	16.3	16	8.2	19	13.8	10	13.3	9	11
11	6762 TDK	76.8	25.0	12	17.7	11	8.6	10	13.4	13	12.1	12	9
13	7741 HOYA	75.3	25.6	8	18.1	7	8.3	16	12.8	16	10.5	20	12
14	6723 ルネサス エレクトロニクス	75.0	24.1	14	18.3	4	8.3	16	12.0	17	12.3	10	
15	6963 ローム	74.7	23.3	15	17.6	13	8.7	8	13.9	9	11.2	17	19
16	6146 デイスコ	74.2	22.9	16	17.3	15	8.8	5	13.3	14	11.9	13	
17	6724 セイコーエプソン	74.0	22.7	17	16.0	17	8.3	16	13.6	12	13.4	8	10
18	6971 京セラ	69.1	22.0	18	15.9	18	8.5	12	11.2	20	11.5	15	17
19	6701 日本電気	67.0	21.1	19	14.7	19	8.0	21	11.3	19	11.9	13	14
20	6988 日東電工	64.5	19.8	20	14.7	19	8.1	20	11.6	18	10.3	21	21
21	6752 パナソニック	62.6	19.1	21	13.9	22	8.0	21	10.4	21	11.2	17	18
22	7751 キヤノン	60.5	17.4	22	14.6	21	8.5	12	10.1	22	9.9	22	23
23	6753 シャープ	53.9	17.4	22	11.7	24	7.6	23	9.2	23	8.0	24	20
24	6503 三菱電機	52.5	16.1	24	12.1	23	6.3	24	9.2	23	8.8	23	22
	評価対象企業評価平均点	74.17	23.70		16.72		8.43		13.01		12.31		

2021年度 ディスクロジー評価比較総括表（産業・民生エレクトロニクス部門）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示	3. フェア・ディスクロージャー	4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	前回順位			
			評価項目3 (配点 32点)	評価項目4 (配点 22点)	評価項目3 (配点 10点)	評価項目3 (配点 18点)	評価項目2 (配点 18点)				
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位			
1	6645 オムロン	86.3	28.1	1	8.9	2	15.2	1	15.4	2	1
2	6501 日立製作所	83.8	27.2	3	17.7	5	14.9	2	15.5	1	3
3	6758 ソニーグループ	83.5	27.3	2	18.2	3	14.6	4	14.6	3	2
4	7951 ヤマハ	78.4	25.5	4	18.0	4	14.7	3	11.2	7	
5	6702 富士通	76.8	25.2	5	16.3	6	13.8	5	13.3	4	4
6	6723 ルネサス エレクトロニクス	75.0	24.1	6	18.3	2	12.0	6	12.3	5	
7	6701 日本電気	67.0	21.1	7	14.7	7	11.3	7	11.9	6	5
8	6752 パナソニック	62.6	19.1	8	13.9	8	10.4	8	11.2	7	6
9	6753 シャープ	53.9	17.4	9	11.7	10	9.2	9	8.0	10	7
10	6503 三菱電機	52.5	16.1	10	12.1	9	9.2	9	8.8	9	8
	評価対象企業評価平均点	71.98	23.11		15.96		12.53		12.22		

2021年度 ディスクロージャー評価比較総括表（電子部品部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示	3. フェア・ディスク ロージャー	4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示	5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回 順位
			評価項目3 (配点 32点)	評価項目4 (配点 22点)	評価項目3 (配点 10点)	評価項目3 (配点 18点)	評価項目2 (配点 18点)	
1	6594 日本電産	81.7	評価点 28.5 順位 1	評価点 19.2 順位 1	評価点 9.0 順位 1	評価点 13.7 順位 2	評価点 11.3 順位 4	1
2	6981 村田製作所	77.5	評価点 25.0 順位 2	評価点 18.3 順位 2	評価点 8.7 順位 2	評価点 13.2 順位 4	評価点 12.3 順位 1	3
3	6762 TDK	76.8	評価点 25.0 順位 2	評価点 17.7 順位 3	評価点 8.6 順位 4	評価点 13.4 順位 3	評価点 12.1 順位 2	2
4	6963 ローム	74.7	評価点 23.3 順位 4	評価点 17.6 順位 4	評価点 8.7 順位 2	評価点 13.9 順位 1	評価点 11.2 順位 5	5
5	6971 京セラ	69.1	評価点 22.0 順位 5	評価点 15.9 順位 5	評価点 8.5 順位 5	評価点 11.2 順位 6	評価点 11.5 順位 3	4
6	6988 日東電工	64.5	評価点 19.8 順位 6	評価点 14.7 順位 6	評価点 8.1 順位 6	評価点 11.6 順位 5	評価点 10.3 順位 6	6
	評価対象企業評価平均点	74.06	23.93	17.24	8.61	12.83	11.45	

2021年度 ディスクロージャー評価比較総括表（精密機器部門）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位	
			評価項目3 (配点 32点)	評価項目4 (配点 22点)	評価項目3 (配点 10点)	評価項目3 (配点 18点)	評価項目2 (配点 18点)						
1	4901 富士フイルムホールディングス	84.5	26.8	2	18.1	2	9.1	1	15.2	1	15.3	1	3
2	8035 東京エレクトロン	83.1	26.9	1	18.7	1	8.5	5	15.0	3	14.0	4	2
3	7752 リコー	82.2	26.1	3	17.5	5	8.8	2	15.1	2	14.7	2	3
4	6857 アドバンテクト	81.6	25.5	5	18.0	4	8.6	4	14.8	4	14.7	2	
5	7741 HOYA	75.3	25.6	4	18.1	2	8.3	7	12.8	7	10.5	7	6
6	6146 ディスコ	74.2	22.9	6	17.3	6	8.8	2	13.3	6	11.9	6	
7	6724 セイコーエプソン	74.0	22.7	7	16.0	7	8.3	7	13.6	5	13.4	5	5
8	7751 キヤノン	60.5	17.4	8	14.6	8	8.5	5	10.1	8	9.9	8	9
	評価対象企業評価平均点	76.96	24.25		17.29		8.62		13.74		13.06		

2021年度評価項目および配点(電気・精密機器)

【評価期間：2020年7月～2021年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (32点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えてしていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	12
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (22点)	配点
(1)説明会における開示	
①決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
②決算説明会において、今後の方向性（翌四半期の見通し等）を具体的に十分説明していますか。	5
(2)説明会資料等における開示	
・決算説明会におけるプレゼンテーション・補足資料は、必要かつ十分な情報が網羅されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	7
(3)インタビュー等における開示	
・主要製品または事業の販売・受注動向が、数量・金額・構成比・成長率のいずれかをもち、十分に説明されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー (10点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	4
(2)リモートツールによる情報提供	
・新しい働き方に即して、リモートツール等を活用した、有用かつ速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、英語対応）を行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	3
(3)疫病や自然災害等のリスク情報の開示	
・疫病や自然災害等のリスクによる影響および対策について十分に開示されていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	3
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (18点)	配点
(1)コーポレート・ガバナンスに関する開示	
・コーポレート・ガバナンスに関する考え方や取組姿勢を十分に説明していますか。例えば、ガバナンス体制、ダイバーシティの状況、役員報酬体系、政策保有株式に関する考え方等。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	6
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画（ROEなど目標とする経営指標）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	6
(3)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (18点)	配点
①統合報告書において非財務情報（ESG情報等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えてしていますか。【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	9
②ESG説明会・工場見学会・事業説明会・技術説明会・商品説明会・M & A説明会が実施され、その内容は有益でしたか。（前年7月から本年6月までの間）【有益な説明会・見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	9

電気・精密機器専門部会委員

部 会 長	佐渡 拓実	大和証券
部会長代理	江澤 厚太	シティグループ証券
	綾田 純也	JP モルガン証券
	桂 竜輔	SMBC 日興証券
	富井 喜隆	MU 投資顧問
	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	和田木 哲哉	野村証券

評価実施アナリスト（74名）

饗場 大介	岩井コスモ証券	清水 俊宏	アセットマネジメント One
相場 繁	野村アセットマネジメント	菅原 繁男	S O M P O アセットマネジメント
秋月 学	野村証券	鈴木 洋平	富国生命投資顧問
浅川 裕之	パインブリッジ・インベストメンツ	平 秀昭	三井住友トラスト・アセットマネジメント
綾田 純也	JP モルガン証券	高橋 豊	極東証券経済研究所
有沢 正一	岩井コスモ証券	瀧澤 紀之	三井住友トラスト・アセットマネジメント
安藤 広樹	三井住友トラスト・アセットマネジメント	田中 健士	みずほ証券
石井 孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	田中 秀明	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
石田 重和	丸三証券	谷林 正行	QUICK
和泉 美治	SBI 証券	坪井 暁	ニッセイ アセット マネジメント
板倉 充知	S O M P O アセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフ アセットマネジメント
板谷 雅之	JP モルガン証券	富井 喜隆	MU 投資顧問
伊藤 健悟	QUICK	豊田 博幸	QUICK
今津 拓洋	アセットマネジメント One	中根 康夫	みずほ証券
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	中名生 正弘	ジェフリース証券会社 東京支店
内野 晃彦	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	萩原 幸一朗	東海東京調査センター
江澤 厚太	シティグループ証券	長谷川 義人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
大川 淳士	大和証券	馮 逸春	野村アセットマネジメント
大牧 実慶	立花証券	福永 敬輔	三井住友トラスト・アセットマネジメント
岡崎 優	野村証券	藤原 毅郎	シティグループ証券
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	堀 雄介	みずほ証券
小野 雅弘	モルガン・スタンレー MUFG 証券	堀井 章	ニッセイ アセット マネジメント
巖 智用	野村証券	グレアム マクドナルド	シティグループ証券
片山 智宏	三井住友トラスト・アセットマネジメント	松浦 勇佑	丸三証券
桂 竜輔	SMBC 日興証券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
蒲生 宗央	野村アセットマネジメント	道脇 祐介	三菱 UFJ 信託銀行
川島 隆治	大和アセットマネジメント	宮原 秀和	丸三証券
久保田 悟	三井住友トラスト・アセットマネジメント	森 貴宏	みずほ証券
栗城 拓也	りそなアセットマネジメント	森 知勝	富国生命保険
小林 守伸	ニッセイ アセット マネジメント	森山 久史	JP モルガン証券
斉田 健一	みずほ証券	八木 啓行	富国生命投資顧問
榮 哲史	大和証券	安田 秀樹	エース経済研究所
佐々木 健太郎	シュローダー・インベストメント・マネジメント	山崎 雅也	野村証券
佐渡 拓実	大和証券	山田 幹也	みずほ証券
佐藤 俊郎	極東証券経済研究所	山本 義継	みずほ証券
醒井 周太	ニッセイ アセット マネジメント	和田木 哲哉	野村証券
芝野 正紘	シティグループ証券	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。